

芭蕉句選  
上





亦く又離潜し以てはあは  
 其の處唐に於て人あはれ  
 大和殺のあはれも何れ  
 其の處あはれもあはれ  
 洋區に於ては間高上  
 阿波に於てはあはれ  
 能く能く  
 笑ひあはれは如く高  
 位博識

句選序

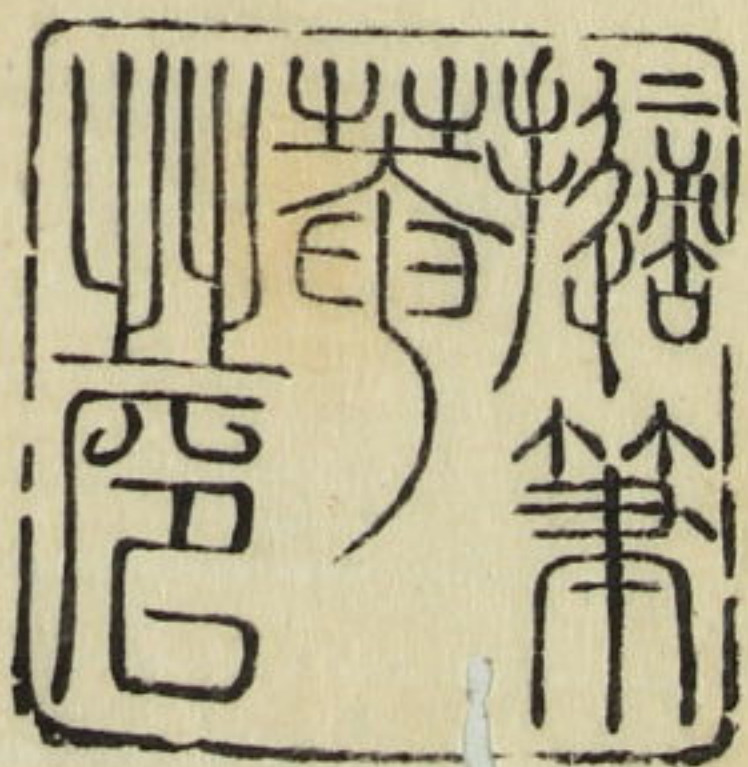


志の如きはるる命  
毛の如きはるる業の如きはるる  
あつてはるる難の如きはるる  
あつてはるる道蕉白選の如きはるる  
夕ふ是地圖の如きはるる  
の情地はるる或は別の意味を  
あつてはるる不の如きはるる  
あつてはるる時々の如きはるる

ゆゑに観を彼乾坤五位の  
置と目初二人と何れか  
の如きはるる或はるる  
あつてはるる或はるる  
同志の友と追加はるる  
あつてはるる或はるる  
五志井の識はるる或はるる  
不作信而友はるる或はるる

句選序

惟昔えんを成平は〜蓬の  
 日擲筆菴主人自序



凡例

- 一四季の類を大抵玉海集此以事小擬  
ひて事乃難を其季の末小裁寸
- 一連歌は用ひざる題ハ愚意ナリヤハせく  
て類の所く小記
- 一月花はむしひまを句をそ句意と量  
く難れ部小入れ
- 一此集小引用る書間字をたれし鳥

焉馬乃誤りしむと云ふ

一 け集衆人の見ふ觸く後校合の委  
かきまると知同の再校一粗その誤と補  
かて猶後人之参考紙傳

春之部

蓬萊の學も也伊勢のしり使  
幸と也猿一とせし家猿の面  
之日ふ田毎の目とて高しりれ  
誰やうの聲も似るまは朝の音  
さるれ人のあはれをいさば花は結露  
ささお新の音もくみ来五律  
おちるあはれもまおと旧友の  
あはれ酒無しはふえり日暮  
ささき候く暇もたしめり

越人精尾冠  
仙合しや新年  
あつとてま  
しはるまは

句選上

二日よきぬりりせしおらたせり書

湖沼清景の菴のまぢむらじ

三日閉口 題四日

又浮城の筆のしめハ海佛

其世弱よりかき書り向ふお菜うふ

一と世に一夜法もまかたり川ふお

書きて海へ九月お聖なるあ

まあれやう名もあま山の朝霞

大日枝也一城引替一のゆき

大日枝也一山白雲の  
比あるよりけり人り  
中々あまのくにけり  
まゝに白紙集り

うらみ此素也柳社一り教のまへ

梅の香ふの心と目結出たあ路うあ

山望まうあ燕行はあおせなる花

人も思ふ書也かこけし〜此梅

春もやなき〜あまをけふ月と梅

梅白〜あまけあや野城望

子に良館の後よ梅何らまら〜

所子ら子けし〜あま〜梅のま

誡乙州東武行  
梅若菜浦まこけ宿のとあけ

細代民部は息よき

梅の采ふ花のしらべもむかひは  
ちんせいのしらべもむかひは  
旅のしらべも古果を梅の葉に  
禁むかひ

暖簾は奥のしらべもむかひは  
所人ほくむかひのしらべも  
まのしらべもむかひは

あるむかひのしらべもむかひは  
防川亭

夏の小文よき  
あま

香枝さくら梅のしらべもむかひは  
子さくら梅のしらべもむかひは  
香小自のしらべもむかひは  
何れも新八のしらべもむかひは  
父梅のしらべもむかひは  
あまのしらべもむかひは  
梅のしらべもむかひは

る梅のしらべもむかひは  
凍むかひのしらべもむかひは



初子一狐の刺一あはれ  
涅槃もあはれをいふ縁取はる

伊勢物語

神の心や思ふまゝにけはぬ涅槃像  
不浄の心や思ふまゝにけはぬ雨  
春雨や露の鼻はくまの木の陰  
ま雨の木の下にけはぬはくま  
あはれ心はくまの心はくまの心  
はくまの心はくまの心はくまの心  
あはれ心はくまの心はくまの心

後の小文と昔法あり  
題はくまの心はくまの心  
はくまの心はくまの心

あはれ心はくまの心はくまの心

あはれ心はくまの心はくまの心  
あはれ心はくまの心はくまの心  
あはれ心はくまの心はくまの心  
あはれ心はくまの心はくまの心  
あはれ心はくまの心はくまの心  
あはれ心はくまの心はくまの心  
あはれ心はくまの心はくまの心  
あはれ心はくまの心はくまの心  
あはれ心はくまの心はくまの心  
あはれ心はくまの心はくまの心

よ〜ゆゑ

たさ〜ま〜し〜ははははは

園城のふ〜ははは

お〜し〜ははははははは

湖〜の地

幸藩のねさ〜ま〜ま〜

〜お〜花〜ふ〜ははは

人〜幕〜ははははは

かんお〜ははははは

ね信〜ま〜ははは

おの又器お接りぬさるる哉

又和の園り子尾村と

花の信備〜ぬ〜ははは

伊賀お花垣のさるる

さるるの〜ははははは

〜ははははは

一里さ〜ま〜ははは

〜ははははは

檀の木〜ははははは

お〜ははははは

批書に百負素き、さうらね部海をりふしこゝ及た花  
 句し  
 親音好し〜はるゑのほの雪  
 ともも福〜もたれを廿日か  
 下りま〜七口花〜るか〜  
 湖中へ海  
 霧沾〜  
 伊智神清樂  
 河津木の心〜も〜  
 二見北園花〜  
 湖はあ〜浦はま  
 櫻も〜花と〜  
 花小〜梅も〜  
 景清も〜  
 物皆自得

東行 饒別

此は言推せ〜花の器一具  
 下りた〜も〜  
 霧沾〜  
 伊智神清樂  
 河津木の心〜も〜  
 二見北園花〜  
 湖はあ〜浦はま  
 櫻も〜花と〜  
 花小〜梅も〜  
 景清も〜  
 物皆自得

花小梅の紅あけく公を友すめ  
蟠蝠も出よし世をけしむふる  
何たさく僧もくしり花のあ

都門のあけ

都門のさ花や上戸は土産せん  
酒のさあかきんうは酔のさ

憂方知酒聖負

覺錢神

花のさ花を我酒公く食ら馬  
程芽やさ花さうり我まけりて

山又度とみみ  
上五

木は本ふけも能くまをたれんあ  
妻のあけ梅のさけは世のさ  
新くぬぬ白くはよ物さうり  
空申は梅の中さまをさうり  
何あまさく酒のさあ教梅  
山櫻瓦あけのさあさ  
櫻梅ささくやあけのさあ  
さあけく梅のささく梅  
故主蟬吟さ花庭前さ  
さあけく梅のさあけ梅

山家

静有窓より  
のまゝとて

鶴が巢より  
あひまを  
命

加州白山奉納

うさぎの  
あつて  
か  
州の  
く

ゆりの  
館  
蛭子讚

蛭子讚

イニ...

あつて  
伏見  
我  
の  
其  
あ  
は  
由

松竹花月とて心ゆくも  
すま入るの儀とて心ゆくも  
福也

さあさあも任ぶる代と離の家  
青柳の影もさうさうと  
水まよひ我情とたつて  
糸中や物もさうさうと  
さあさうとさうさうと  
おどろくの中は拍もさうさうと  
おどろくの中は拍もさうさうと

道のり  
暗  
野  
路

野路

又母はさうさうに  
蛇ふとゆつと  
雀子とさうさう  
蝶の飛ぶさうさう  
起るさうさう  
古也やさうさう  
遠出よかいや  
二股よめれ  
旧友よ

まはるゝ縁控し  
ふつゝは、猫乃  
まはるゝまはるゝ  
まはるゝ

森の角先一峰乃あまのこ  
猫は毒竈の崩るるまはるゝ  
まはるゝに居つるまはるゝ猫乃毒  
猫のまはるゝに居る乃は月  
ふ路まはるゝ何やまはるゝまはるゝ

悼 呂丸

あはれより何れハ探の豊州  
古畑のまはるゝに居る乃  
いりくのまはるゝに居る乃  
木もまはるゝ情まはるゝまはるゝ

まはるゝ集は、縁の  
白くしるゝの眼は

まはるゝまはるゝまはるゝ

喜 提山

まはるゝまはるゝ

山寺は然しまはるゝに居る乃  
まはるゝまはるゝまはるゝ  
まはるゝまはるゝまはるゝ  
まはるゝまはるゝまはるゝ

大和乃神の時

まはるゝまはるゝまはるゝ  
山はまはるゝまはるゝ  
まはるゝまはるゝまはるゝ  
まはるゝまはるゝまはるゝ

山吹のやうな葉のまはらうちの春のや

望湖水惜春

はるかなる水に人はいらぬ

前途の子を思ふおもひのつら

かきつらて竹のいらまうこゝに

のあはれをわらひて

行まはらうちの春に車はひたなる

初まうちの初秋の浦に追はる

二月十七日の神洛山城の

まはらうちの春に車はひたなる

子に離れと中人あはれをわら

はるかなる水に人はいらぬ

前途の子を思ふおもひのつら

かきつらて竹のいらまうこゝに



追

加

白選彫刻は事見胸の白哉  
拾ふて追加の例と記す

老傭

略  
去るは曲の價はねはるは  
去るは曲の價はねはるは

此句は...  
難くても...  
難くても...

鶴の巢も...  
阿蘭陀も...  
川流は...  
らん...  
梅

富士小杉植下られ家出の  
海小水二節一あり七植

夏之部

海小川程を渡りかじぬ衣うへ  
日光よ

何ぞあつと書きあひぬる日の光  
あつたあつと神目か下 哉と也  
夏とあつとあつとひはははは 哉  
菽棗所を津乃わうとあつと

吾乃舎か画賛  
津さくそのあつとあつと七徳と家  
達 執 尚 舎

後的小文よあつと  
しりりり  
何ぞあつとあつとあつと  
あつとあつとあつと

句選上

十二

只の十文草のあふま  
ふふらふ

とけり名をえとふ秋のさゆふ  
藤のさゆふよりゆき 春のさゆふ

さき 岸まはれ奥へ

木塚も庭へあけつてはるまじ

河原の浦一見の時

河原もよみぬ笛をくも下園

幻住菴より

先きの妙か推の木も何れもま

結ぶらうふも縁乃ひくくぬ

山崎宗鑑の回縁

まじりたきういぬまうた

さうい相あふ子、海ありて

今やいひまにあらんとも

牡丹葉ゆかかひぬらみ結ふ

桃隣新定自画自跋

空うくぬさや牡丹はたの室

く乃あやうた柳の及き

あまえる大巖和あま〜睦月

お〜免近化〜縁ふ

縁やまはれまはれせう

句集上

先及... 櫻... 十

奈... 十

作... 十

灌佛の... 鳥... 十

等... 十

一... 十... 不卜一周忌琴風興行

本はまはな海も吉記祝言  
しる我をけしひくもきうんこ為  
らんうらと何あちや雨乃と花の香  
るる橋金

袖のふよむく城もみ新程間  
海士は新しきうらるるやにの言

贈社園子

ふきやふ羽をく襟結うらるる

お田の堂見

あうふらふらやおは酔とさるる

いんねん

愚小くくく羨哉つるむ堂くれ  
よのよふたはるるを花堂うら  
こらあ茂木とけ堂やうらるる  
けりるるけのふらるるけりるる  
こは境といわら家あといわら  
さの事いれ

鴨牛角のふらるるよ海産のふ  
うら人の旅もあつるるけり  
らけりるるけりるるけりるる  
けりるるけりるるけりるる

何れてうらみあき山中と追ふ候

こゝろくともとて 夢に氣する 於尿も 依持りし

竹の子や 誰と 記の 後世と云ふ

うらみの 夢に 竹の子 扱へり 吾我等

竹睡目

傍りとも 採植る 日と 羨しと云

奥別今 姑あつと 出さる

早世間 夢に 夢り 又と 夢と云 扱らふ

志は 不措の 石と 留て

夢あつと 夢の 夢と 留て

後見た 夫桑すれり  
伊母の 白かりて 夢の 白

何れ 夢に 留て 扱らふ  
又 夢に 留て 扱らふ

渺々と 尻たの へり 田と云 へり 扱

清き 夢あつと 夢と 扱らふ 留て

何れ 夢の 夢と 扱らふ

田一枚 へり 夢と 扱らふ

風流の 夢と 扱らふ 奥に 留て

名護 夢と云

吾我 旅と 代り 小田 夢と 扱らふ

五月 夢に 留て 扱らふ 夢と 扱らふ

夢と 扱らふ 夢と 扱らふ 夢と 扱らふ

夢と 扱らふ 夢と 扱らふ 夢と 扱らふ

美濃の浮草とていふもの

大井川の如く留田探草の

如くはありて

五つ雨の如く吹かす大井川

八人堂の如く立あふる川

如くはあり

又月とて我集りてとて川上川

徑堂を三将の像と結ぶ堂

三代の楯をかきあふる如く佛を

家とていふ

かゝる如く像の如くはとて堂

酒の如く堂額破

又月とてやり又布をさるる如く

夜中好実方如く探草なり

等如く川とて月乃如くは

苔根の如く越て

目とて如く時を如くはとて

美我徑好太刀を如くはとて

如くは什物なり

又太刀を如くはとて如くは

伯如集りては如くは  
如くはとて如くは  
~~~~~

杏一は地坤の海路あり魚のきて  
遠く目付の深法なるの草  
二足残さるゝ風浪の  
のちのちのちのちのちのちのち  
葛蒲州一足もせん草の  
稔のゆくふに  
正成の像殺肝石此入之情  
なしていふかろ家園や植の  
國破くはあはれ城妻の  
のちのちのちのちのちのちのち

しるはるゝあしとらゆり  
及よや兵とさるゝ乃  
殺生石

石乃もやら及よやあしとらゆり  
あしとらゆりあしとらゆりあしとらゆり  
冒排をゆめと  
己百亭

屋りのせん勢利杖よるりと  
あしとらゆりあしとらゆりあしとらゆり  
陸奥ふらんて下野の





友をたのむがはらひのいんを  
家祿のあしにむかひ

友のふまゝ遊歩せんまはれ  
襟はまきや花はらふまじ  
紫陽もまや帷子時花  
あらしのこゝろを  
象陽は面や西施の合歡の花  
許さるる木も夕陽ふかむ時  
旅人乃ちさるるまはれ  
葉のつらふ文もさるるまはれ

西す淨土へ便あつた  
善菩薩の一生杖も柱も  
木を圓珠かきり

世の人おのれを  
志川うまきやまはれ  
水鶴鳴く人のいふや

水鶴鳴く人のいふや  
又海湖仙亭

けさのあつた  
やしねぬり

撞鐘もあはれかきあり蟬の音

山形願ふまゝの音もあはれ

あはれ佳景寂寞とて

かゝるるの

園もあはれかき入蟬の音

豊赤しりすまの像よ

像よ

園もあはれかき入の音

の石夜泊

惜 赤あやまのあはれかき入の音

夜の月神油のまゝかき入

夜の月神油のまゝかき入

波の音もあはれかき入

波の音もあはれかき入

大井川波の音もあはれかき入

あはれかき入の音

あはれかき入の音

あはれかき入の音

あはれかき入の音

あはれかき入の音

文山の像

あはれかき入の音

あはれかき入の音





海に花を散らすと花もも

花ももも

花ももも花ももも花ももも

花ももも花ももも花ももも

花ももも花ももも花ももも

花ももも花ももも花ももも

花ももも花ももも花ももも

花ももも花ももも花ももも

花ももも

花ももも花ももも花ももも

目小えや  
むら

川中の根木よ

唐被風結入也

川風也

版あかく鼻

破風

酒田の傍

以小醫師

木山即亭

木山即亭

木山即亭

秋のまはりのあやも  
何れも我の心は  
友のあやも  
楓のまはりの  
夏山より  
あやも  
清く

追加

晋子母追善

卯姑をたも母あはれ宿を冷し支

甲斐山中

山賊のたし  
はくわ  
自  
杜  
昔







祥